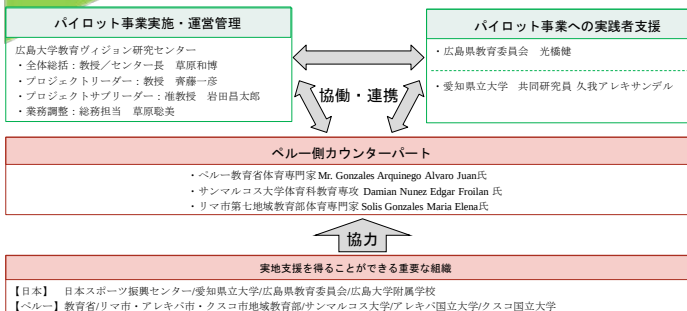


ペルーでは、2017年から小学校の体育授業数が週2コマから3コマへと増加し、適切な体育授業を展開できる教員の育成が喫緊の課題となっている。またその中で、日本の学校体育の知見の共有が求められてきている。そこで本事業では本学が中心となりながら、特にレッスン・スタディを活用した体育教員研修システムの構築を目指しつつ、ペルーの体育教師の能力開発に向けての支援を行う。

事業の目的

ペルーでは、体育の授業時間数が増えたことにより、体育授業のあり方や、それを教える教員研修プログラムの作成が検討課題である。本事業では、レッスン・スタディを活用した体育教員研修システムをペルーの体育科教育関係者とともに構築し、ペルー国内に広く普及していくための支援を行う。

実施体制



これまでの活動内容・アウトプット

【2018年度】

- ・リマ市において、ペルー国内では初となる「授業研究会」を教育省、サンマルコス大学、地域教育局の体育科教育の専門家や現職の体育教員らを招き開催した。
- ・リマの体育教員向け研修会にて、レッスン・スタディを活用した教員研修のあり方について発表した。
- ・アレキパ市及びクスコ市では、学校の体育事情調査を調査した上で、2019年度に両市において「授業研究会」が開催できるための調整を行った。

【2019年度】

- ・広島大学、広島県教育委員会、リマ市の体育専門家で体育科教育チームを結成し、アレキパ市・クスコ市にて「授業研究会」を開催した。
- ・研究会では、日本の体育授業の紹介やレッスン・スタディについての講義を実施後、授業研究会の一連の流れ「事前検討会－授業実践－事後検討会」の全てを日本側で実演した。
- ・ペルー国内の体育専門家や両市の体育教員約900人が参加し、両市においてもレッスン・スタディ導入が開始されることとなった。



レッスン・スタディに関する講義



ゴールボールの授業実践



バレーボールの授業実践



事後検討会

今後の展望・担当者からのメッセージ

- ・今後、レッスン・スタディが「体育」のみならず、他教科に広がっていくことで、多くの学校での普及が可能になると思われる。今後も引き続き、レッスン・スタディ普及のためのサポートを継続したい。
- ・日本・ペルー共同で開発したレッスン・スタディシステムが、他の南米諸国等へ広く展開し、多くの国々、地域の教育の質の向上に繋がっていくことを期待する。